

大学の第三の機能

過去、大学に与えられた使命は、「研究」と「教育」であった。そして、今、社会が大学に寄せる期待には、前二者に加えて新たに「社会貢献」がある。バブル経済の破綻による伝統的日本経済システムの衰微、加えて冷戦終結以降のグローバル競争の激化という環境の中で、我が国経済の牽引役を大学に求めるようになったからに他ならない。

このような事態は、我が国の大学制度始まって以来初めての経験であるが、こういう輿論にたいして大学としてこれに応えられないとすれば、その存在は自ずから意味をなさなくなると考えなければならない。

ところで、山梨大学は、大学統合を機に改めて大学像を模索する中で、以下の4点を当面の着地点として設定した。すなわち、

- 研究・教育基盤の強化
- 医学と工学の融合による新しい研究教育分野の確立
- 教養教育の重視
- 地域連携の強化とその世界的規模への拡大

である。

ところで、¹⁾の研究教育基盤の強化については、統合そのものが既にして基盤強化につながっていたのであるが、加えて、学内外から下される各種評価結果をもとに資源の有効な配分を含む具体的な基盤強化策を現在模索中である。その中から、²⁾の医学・工学の融合による教育研究分野の確立をめざして、2003年4月、「大学院医学工学総合研究部・教育部」を創設した。³⁾の教養教育の充実については、これを単にいわゆる教養科目の充実というに止まらず、基礎科学分野の重視、充実と、教育面において、山梨大学が輩出する人材の高度専門職業人としての能力の向上に努めることである。そのために、学部学生に対しては基礎学力の重視、小規模ゼミナールによる学習動機付け、IT技術活用によるプレゼンテーション能力の向上を、大学院学生に対してはプラクティカルな問題解決能力の向上を図ること、特に後述の起業家精神の喚起のための教育などによるプラグマティカルな専門家育成を図ることとしている。

以上の研究・教育基盤の上に、⁴⁾地域連携を通じた社会貢献、その究極の成果として世界的規模での技術革新・文化創造・価値創造を本学の「第三の機能」として確立することとしている。

その具体的なアクションとして、すでに現在下記のようないくつかのプロジェクトが開始されている。

「次世代型燃料電池材料プロジェクト」: これはすでに政府が進める「リーディ

ングプロジェクト」として、本学を国際的な燃料電池に関する中核研究機関、技術のメッカとする計画である。

「地域クラスター」の中核機能：東京三多摩地域から甲信地域および東濃地域（岐阜県東部）につながる中央自動車道沿線地域の産業クラスターのネットワーク中心として本学を位置づけ、各種産業、企業、地方行政機関、および公設試験研究機関等々の間を結節していこうとする計画。

知的財産の蓄積およびベンチャー創業支援機能：本学が創造し所有する知的財産の蓄積とその頒布、およびそれらのうちからベンチャー企業への提供や技術支援、または大学発ベンチャー企業創業支援。すでに山梨大学発ベンチャー企業は現在までに5社創業されており、その数と質は全国立大学中トップクラスにランクされている。

山梨大学には600人の研究者がいる。この人材を使って、山梨大学は、地域の中央研究所としての機能を発揮し、大学の「第三の機能」という新しい負託に果敢に応えていこうと決意しているのである。